

西条市版SDGsのあり方と実現に向けた戦略

～将来世代へ繋いでいこう！豊かな自然とみんなの笑顔を～

西条市自治政策研究所 特定研究員 高橋 康行
 特定研究員 大石 裕基
 特定研究員 細川 由貴絵

1. はじめに

SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された国連加盟193か国が2030年までの15年間で達成するために掲げた国際目標である。本市においても、2030年のあるべき姿を明確化する必要がある、目標達成に向かってステークホルダーと共にSDGsを推進していくことが求められている。本研究では、世界共通の目標であるSDGsの達成に向け、本市におけるSDGsのあり方と効果的な戦略を明示していく必要があると考え、本研究に取り組むこととした。

2. SDGsの概要

(1) SDGsの背景と理念

1960年代に技術革新等により世界経済が飛躍的に成長を遂げた一方で、大量生産・大量消費・大量廃棄が進み、経済的な格差の拡大が広がった。地球環境の汚染と破壊が進行していることを危惧し、持続可能な開発が議論されるようになり、「ミレニアム開発目標（MDGs）」や「リオ+20」を経て、2015年にSDGsが誕生した。SDGsは、17のゴール、169のターゲット、及び指標から構成され、経済・社会・環境の諸課題を包括的に扱っており、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓い、発展途上国のみならず先進国自身が取り組む普遍的なものである¹。



図1 SDGsにおける17ゴール

(2) 日本におけるSDGs

日本においては、未達成の課題への取組と、SDGsの課題解決先進国として世界のSDGsの取組を牽引するため、2016年5月に「SDGs推進本部」を立ち上げた。主な事業として、以下の5点が挙げられる。

- ① SDGs実施方針の策定
- ② SDGsアクションプランの策定
- ③ ジャパンSDGsアワード
- ④ SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業
- ⑤ 官民連携プラットフォーム

また、2030年の目標達成へ向け、2020年から「行動の10年」として取組を加速させている。

3. 企業等や自治体の取組

(1) 企業等が取り組む意義

企業、大学、病院、金融機関、NPO等のSDGsの取組を調査した結果、各々が課題解決のためにイノベーションや創造性の強みを活かしてSDGsに取り組んでいた。取り組む意義としては、イメージアップ、信頼獲得、持続可能な経営のための戦略づくりや、新たな事業機会の創出等が主に挙げられ、SDGsに取り組むか否かは企業等への評価の判断基準となっていると考えられる。

(2) 自治体に取り組む意義

自治体がSDGsを活用することにより、行政、民間、市民等の異なるステークホルダー間で地方創生に向けた共通言語ができ、政策目標の理解が進展し、自治体業務の合理的な連携の促進が可能となる。また、自治体に取り組む意義として、以下の3点が挙げられる。

- ① ゴール11の「住み続けられるまちづくりを」は自治体の施策にもっとも関連が強いこと
- ② SDGs推進の司令塔である国と、地域の産業界や市民等との間に立ち、その中継役である自治体として連携を促す必要があること
- ③ 市民生活に最も密着した行政機関として、地域の

歴史・文化や社会・経済などの実情を踏まえて政策を推進していく必要があること

これらを実現していくことで、地方自治法第1条の2に明記されている地方公共団体の役割の基本である「住民の福祉の増進」を図ることができる。本市にとって持続可能な地域づくりを達成するために、SDGsの取組は必要不可欠であり、イノベーションや創造性の強みを活かして取り組む様々なステークホルダーと連携することが重要である。

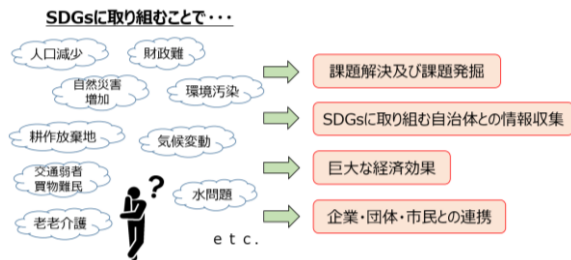


図2 SDGsに取り組む効果

4. 先進自治体の分析

(1) SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業

地方公共団体によるSDGsの達成に向けた取組は、地方創生の実現に資するものであり、その推進に向けて2018年に国によって「SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業」が創設された。課題解決のための主な取組内容を分類化していくと、地域自治組織の形成や人材育成や、公民連携などステークホルダーを巻き込み、連携した取組に力を入れている自治体が多い。

(2) SDGs先進度調査

2020年に(株)日本経済新聞社が実施したSDGs先進度調査では、全国815市区を対象にサステナビリティの観点から自治体に取り組むべき課題や重要と考えられる指標を抽出し評価している²。

総合順位 (前年)	自治体名	総合得点 (100点)	経済(順位) (14点)	社会(順位) (53点)	環境(順位) (33点)
1 (7)	さいたま市	76.13	9.60 (47)	36.93 (8)	29.60 (1)
2 (1)	京都市	74.70	7.40 (262)	37.90 (6)	29.40 (2)
3 (14)	葛飾区	72.87	8.60 (116)	38.73 (4)	25.53 (12)
4 (2)	北九州市	72.82	6.00 (446)	38.25 (5)	28.57 (3)
5 (4)	豊田市	72.10	12.00 (3)	34.17 (25)	25.93 (9)
6 (13)	福岡市	71.78	7.60 (232)	38.88 (3)	25.30 (13)
7 (27)	川崎市	71.15	9.00 (83)	35.53 (13)	26.62 (7)
8 (6)	相模原市	70.98	9.00 (83)	33.45 (30)	28.53 (4)
9 (8)	板橋区	69.23	9.20 (70)	36.17 (10)	23.87 (25)
10 (5)	岡山市	69.05	8.60 (116)	35.70 (11)	24.75 (17)
37 (59)	松山市	63.70	6.40	32.7	24.5
238 (222)	西条市	48.80	7.00	25.1	16.7

SDGs未来都市に選定

図3 SDGs先進度調査(日本経済新聞社)

先進度調査では、人口規模の大きな自治体ほど上位にランクインしている傾向があるが、上位の自治体と本市との点数を比較すると、配点の高い分野である社会・環境において、本市は非常に低いことがわかる。

5. 西条市とSDGs

(1) 西条市の三側面における整理

本研究において経済・社会・環境の三側面で整理するにあたり、SDGsの17のゴールの関連性を示す構造モデルとしてStockholm Resilience Centreが示す「SDGsウェディングケーキモデル³」を採用した。「経済圏」の発展は、生活や教育などの社会条件によって成り立ち、「社会圏」は最下層の「生物圏」、つまりは人々が生活するために必要な自然の環境によって支えられ、頂点のゴール17で国や企業をはじめとした全世界の人々がパートナーシップを組むことにより、持続可能な社会を作り上げることを示している。このため、「生物圏」がすべての持続可能性の土台となっている。

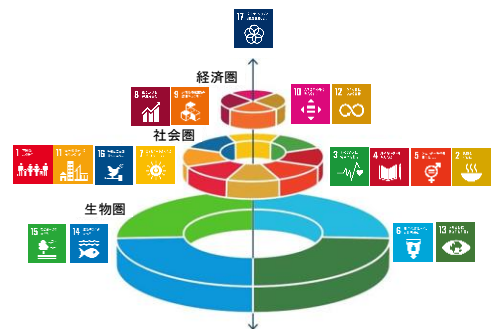


図4 Stockholm Resilience Centreが示すSDGsウェディングケーキモデル

本市における過去の取組について、市勢要覧や広報誌より1949年から2020年までの主な施策・取組169を抽出、整理した。三側面で見ると、過去の取組の半分以上が「社会」で、次に多い「経済」を合わせると全体の約8割を占め、「環境」や「パートナーシップ」の取組は少ない結果となった。

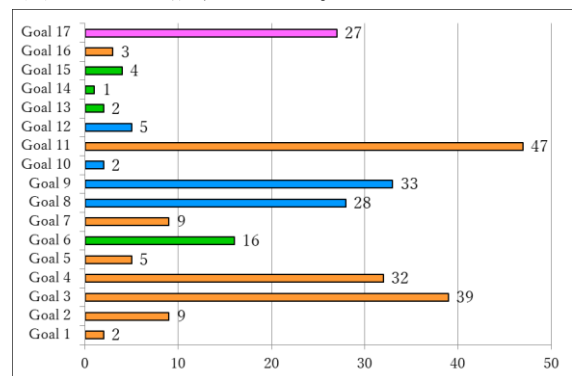


図5 SDGsの17ゴール別取組数(過去の取組)

また、現在の取組について、実施計画より2020年から2022年までの3カ年の主な事業・取組316を抽出、整理した。三側面で見ると、過去の取組と同様に、教育・福祉の充実や産業発展のための「社会」や「経済」の取組が多く実施されている一方で、持続可能性の土台となる「環境」や軸となる「パートナーシップ」の取組は不十分で、まだまだ改善の余地があると考えられる。

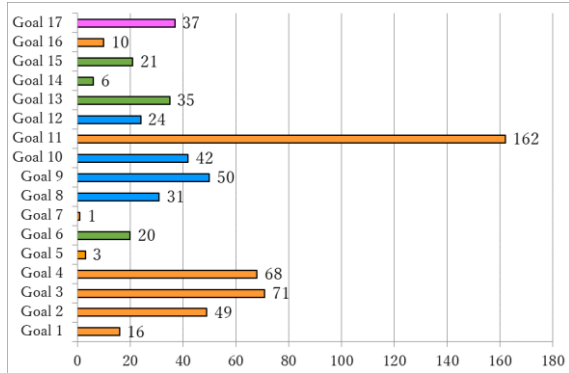


図6 SDGsの17ゴール別取組数（現在の取組）

(2) 西条市の将来ビジョン

本市は、西日本最高峰の石鎚山に代表される自然環境に恵まれた地方都市であり、生活や産業、歴史、文化等は、すべて豊かな自然からの恵みである。この恵みを活かして成長してきた本市は、豊かな自然環境を次世代に引き継ぐとともに、経済・社会・環境の三側面が調和した持続可能な西条市をみんなで実現していかなければならないと考える。

SDGsの理念及び今後取り組む課題、総合計画の基本構想等を踏まえ、持続可能であることの定義を「人口が減少しても活力のあるまち」とする。また、本市の豊かな自然と共生しながら、それぞれの持てる力を十分に発揮し合い、将来にわたって誰もが安心して笑顔で生き生きと暮らすことができる持続可能な西条市の実現を目指し、2030年のあるべき姿を「豊かな自然と共生し、みんなが活躍できるまち〜将来世代へ繋いでいこう！豊かな自然とみんなの笑顔を〜」とする。

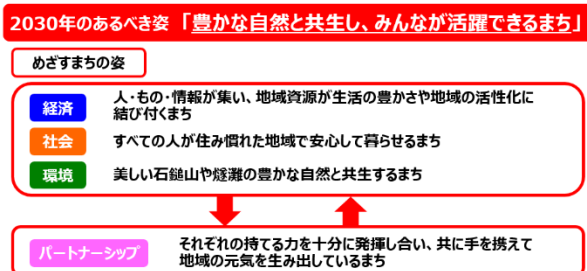


図7 2030年のあるべき姿とめざすまちの姿

6. 西条市版SDGsのあり方と戦略

(1) 西条市版SDGsのあり方

本市は、2030年までの世界共通の目標であるSDGsを達成するために、自治体として積極的に推進していく必要がある。これまで述べたことを踏まえて、西条市版SDGsのあり方として、以下の2点が挙げられる。

- ① 持続可能な地域づくりのために、様々なステークホルダーと連携し、自律的好循環を形成させる
- ② 市民、行政、企業が共通のビジョンをもってゴールへ向かう

また、西条市版SDGsのあり方を基に、2030年のあるべき姿の実現に向けて、計画的にSDGsを推進していくために、優先順位を決めたSDGsの取組、多様なステークホルダーを繋げる仕組みづくりや、職員・市民への意識改革を早急に行う必要がある。

そこで、本市での施策・取組が少ない「環境」、「パートナーシップ」を優先的に取り組み、SDGs推進における土台及び軸づくりを行う。

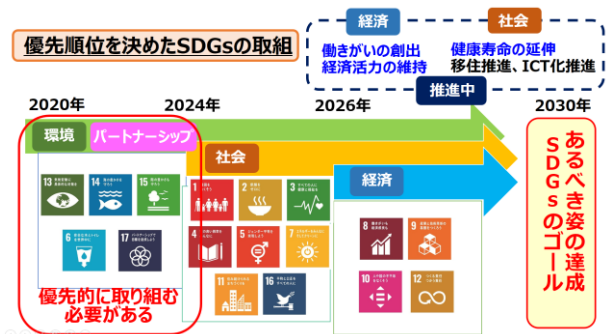


図8 優先順位を決めたSDGsへの取組

(2) 実現に向けた3つの戦略

早急に取り組むべきことを踏まえて、2030年あるべき姿の実現に向けた3つの戦略の提案をする。

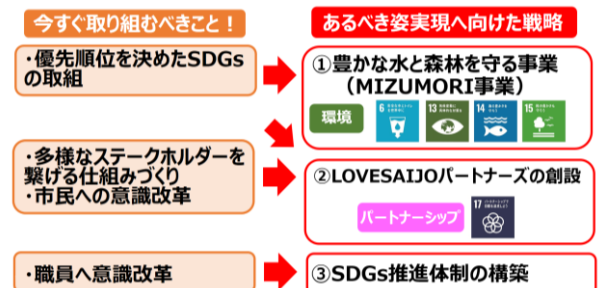


図9 あるべき姿の実現に向けた戦略

- ① 豊かな水と森林を守る事業（MIZUMORI事業）

本市は石鎚山系等が浄化する豊富な地下水の恩恵を受けている一方で、その源である森林の整備が遅れて

いる。そこで、「MIZUMORI 事業」では、今後 50 年間でどういった森林にしていくかを行政、森林組合及び市民がワークショップ等にて議論を重ね、可視化できる長期的な「森林ビジョンの策定」を行う。森林整備を実施していく上で不足する財源については、森林ビジョンに共感する企業等からの基金や、ふるさと納税等を活用する。また、本市の森林の現状を知ること、林業従事者の担い手不足の解消や、SDGs の認知度向上を目的として、体験型学習ツアー等を実施することで、次世代への木育・育水の推進を行う。

「MIZUMORI 事業」を実施することで、森林や多様な生態系の保全等の環境分野だけでなく、土砂災害の軽減や、新規ビジネス創出等の社会・経済分野においても相乗効果を生み出すことができる。

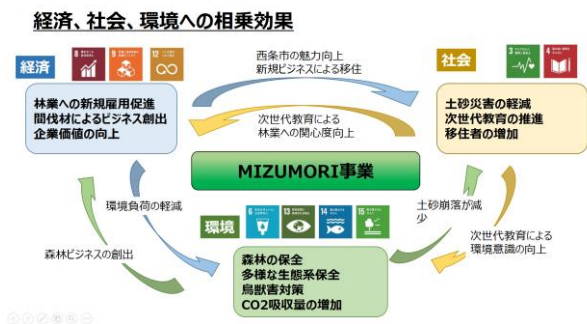


図 10 MIZUMORI 事業の三側面の相乗効果

② LOVE SAIJO パートナーズの創設

企業間の連携を促進し、個人や地域と企業等を繋げるために、SDGs の情報を集約する Web システム「LOVE SAIJO パートナーズ」を創設する。

企業向けには、オンライン講習や SDGs の取組の情報発信等ができるネットワーク環境を整備する。また、企業が抱える課題に対して、AI を用いたパートナー選定の支援を行い、企業間の連携の推進を図る。

個人や地域向けには、身近な SDGs の事例を紹介し、市民の認知度向上や普及啓発に繋げる。また、Web システムを活用して、本市に貢献したい企業や、本市で新規事業を始めたい企業等の情報を集約し、耕作放棄地解消等の地域課題を解決するためのマッチング支援を行い、持続可能な連携の推進を図る。



図 11 LOVE SAIJO パートナーシップの概要

③ SDGs 推進体制の構築

本国会、作業部会や事務局で構成する「SDGs 推進本部」を設置する。本国会では、本市にて SDGs を推進していく上で、実践すべきテーマを決定する。作業部会では、各テーマに対してその関連部署から職員を選定し、横の連携を密にして政策立案等を行い、本国会へ提言を行う。外部組織とも積極的に意見交換を行い、産官学金で連携して SDGs に取り組む。

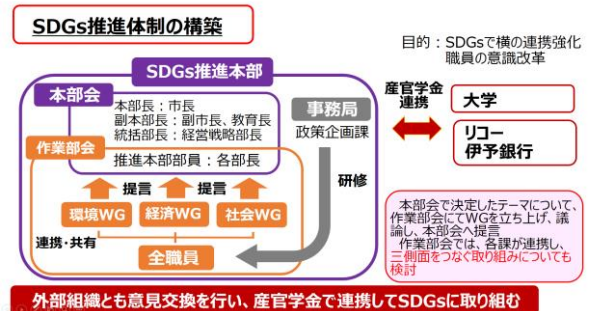


図 12 SDGs 推進体制の概要

7. おわりに

2030 年までの世界共通の目標である SDGs は、企業、市民、行政等の多様なステークホルダーが一丸とならないと決して達成できるものではない。行政だけでなく、市民一人ひとりが自分事として、「持続可能とは何か」を考え、些細なことからも行動していくことが重要である。市民生活に最も密着した機関である自治体が、企業や市民との連携を深め、目標を共有し一体となって力を合わせていくことで、将来世代が笑顔で暮らせる明るい未来へ繋ぐことができると考える。

¹ 沖 大幹、小野田 真二、黒田 かをり、笹谷 秀光、佐藤 真久、吉田 哲郎 (2018) 『SDGs の基礎』 事業構想大学院大学 出版部

² 日本経済新聞社 (2021) 『日経グローバル』 2021.1.4 No.403、日本経済新聞社

³ 『Sustainable development goals How food connects all the SDGs』 Stockholm Resilience Centre <https://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-how-food-connects-all-the-sdgs.html>